

【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

みんなであつなごう！こころと笑顔

吉田より子

[推進員認定期]第5期

【所属】三障がい混合サークル「ヒッキーハート」(視覚障がい者) 【活動エリア】嵐山町、東松山市、他

学習対象者	小学生(4年生) 中学生 高校生 住民 その他()
内 容	障がい理解(車いす体験、アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、その他(講話、ゲーム)) 高齢者理解(高齢者疑似体験、高齢者と交流、施設体験、その他()) その他の理解()
所用時間	1回あたりの時数：90分(講話45分+体験45分)
ねらい	人はお互い様の気持ちで支えあって助け合って生きているのだという事を、人が人として、自分らしく生きていく力を育んでいくという思いと、人が元気に笑顔で生きていくには、人と関わってこそなのだという事を、講話と体験を通して感じてもらいたい。

はじめに

私は、急激に見えなくなり始め、全盲になって3年になる。仕事を辞してから9年間の実生活での体験、失敗、その時々悔しさ、みじめさ、嬉しさ、喜びなどを通して、今の私があるということ、福祉教育を通じて伝えていきたいと思っている。

実践内容

1 講話(45分)

- ・見えなくなったの生活の中での失敗や喜びなどのエピソードを通して、今の私があるということ。
- ・自分を認め受け入れて、好きになって、心豊かに笑顔で生活していること。

2 体験(45分)

次の2つの体験うち、1つを選択して行う。(詳しいプログラム内容は、別添計画書参照)

【一緒に歩いて色々さわって、一人で歩いて】

- ・生徒をガイド者とアイマスク体験者のペアにする。
- ・5mのコースの中間まではペアで歩き、中間地点に置いてある野菜や果物が入った箱の中から、ガイドが指示したものを手探りで選ぶ。
- ・ゴールまではガイド無しの一人で、障害物の机をよけながら、ガイドの声の誘導を聞いて歩く。

【じゃんけん列車】

- ・じゃんけんをし、負けた人が勝った人の後ろにつき、列車のように1列を長くするゲームの応用。
- ・ルールを変え、2回行う。

(1) 1回目

全員が見えている状態で行う。

(2) 2回目

全員がアイマスクをして、見えない状態で行う。

ここがポイント！

・授業は必ず、講話と体験の組み合わせで行っている。体験だけを依頼する学校もあるが、その時は、学年担当の先生と打ち合わせの上、講話も加えてもらう。その必要性をきちんと話すこと。

【講話について】

・視覚障害の色々(全盲・弱視・先天性・後天性・見え方の色々・点字を使う人、使わない人など)について説明をする。そして、「私の場合はどうか？」という事と、「視覚以外のほかの感覚を全てつかっての生活」など、生活の工夫と気持ちなどを伝える。

・できない事を数えるのではなく、「これもできる。あれも。まだ出来る…」など、できる事を数えていくことを通して、勇気やあきらめないことの大切さを伝える。

・できなければ人をお願いする。甘える勇気も必要だ。そのためには、自分を大切に思ってくれる友人・両親・家族・先生に素直に正直に話すことが大切。その勇気も必要だ。これらの伝えたい思いを、これまでの私の実生活からのエピソード(失敗談、悔しい、悲しい、嬉しい、喜びなどの)を入れながら話す。

【体験について】

・体験だけで終わらせるということは避けたい。学校によっては、先生と生徒だけで『アイマスクとガイド体験』をやってしまうことがある。するとどうなるか？子供たちの感想には決まって「怖かった、大変、不安」などのマイナスイメージだけを植えつけてしまうのだ。ましてや、現在は、小学四年生に対しては、この体験は私たちのサークルではやってない。『見えないって？見えなくても…。声かけがあれば…。』という事をベースに体験プログラムを考えている。

成果と課題

【生徒の感想より】

見えなくても普通に生活できるんだとわかった。勇気を出すって大事なんだ。一緒に歩くと安心。僕も勇気を持って声をかけようと思う。声をかけてもらおうと安心と言う事がわかった。

【成果】

町で、授業に関わった親子や、進級した子供達からの声かけがあったり、その母親に「子供から授業の話を聞きました。」と感謝の言葉を頂くと、授業の成果を感じ、嬉しく思う。